

ミャンマー国人身取引被害者自立支援のための能力向上プロジェクト

No.11/ 2013 年 6 月 18 日

ヤンゴンからミンガラバー

マルチプライヤーコース (Multiplier Course) 研修 をマンダレーで開催 (6/12-14)

プロジェクトでは「人身取引被害者支援に携わる人身取引被害者の保護・自立にむけた支援改善」をプロジェクト目的として様々な活動を行っており、その一環として2月下旬に2週間のTOT研修を実施しました(ニュースレターNo. 9)。そして今回はTOT研修で学んだ参加者たちが講師となって研修を行うマルチプライヤーコースを実施しました。マンダレーとヤンゴンでそれぞれ3日間実施予定で、今号のニュースレターではマンダレー研修の様子をご報告いたします。



3日間の研修の事前準備として、14人のトレーナーのTOT研修生は前日から集まり、プログラムの最終調整や打ち合わせを行いました。トレーナーの人たちは5月の準備ワークショップで集まって以来久しぶりの再会。すぐにワイワイと活気溢れる打ち合わせ風景が展開され、数時間後には準備が終了しているという手際の良さには感心してしまいます。

1日目の開会式はマンダレー地域の国家計画経済開発省大臣のスピーチから始まり、ミャンマーのテレビ放送



局 MRTV とスカイネットの取材も入りました。MRTV のレポーターが今回の研修の目的や内容についてトレーナーにインタビューをしたものが翌朝のニュースで放映されたそうです。また、ミャワディーという新聞にもワークショップの記事が掲載されました。

今回の研修では開会式、閉会式、アクションプランの作成の部分以外は、進行からプレゼン資料作成まですべてトレーナーの人たちに任せています。開会式が終わるとトレーナーのファシリテーター役が、「私たちが11日間のTOTで学んだことを、今回は3日間でみなさんにお伝えします」とプログラムの説明を始めました。その後トレーナーと受講生の自己紹介、プレテストと進めて行きます。

受講生の内訳は、社会福祉局7名、ミャンマー警察人身取引対策ユニット(ATTF)6名、女性課題連盟(MWAF)と母子福祉協会(MMCWA)から5名ずつ、内務省一般行政局(GAD)と赤十字がマルチプライヤーコースら4名ずつ、そのほかに情報広報省から2名、メディアから2名(日刊紙のヤダナボンと週刊誌のシュエ・マンダレー)、の計35名です。

メディアからの参加は今回初めてでしたが、メディアで大きく取り上げられた事件について質問したり、アクションプラン作りにも加わり、3日間熱心に受講されていました。



研修の内容は、用語などの基礎知識、CBTIPを中心としたミャンマー国の取り組みと人身取引関連の法律、入管・労働省・警察など各関連政府機関の役割と責任、国連機関やINGOの役割、ジェンダー、男性被害者の支

援、子どもの被害者の保護、被害者の帰還と社会復帰支援、Safe Migration、カウンセリングの基本と人身取引被害者のカウンセリングについて、被害者認定について、各機関の連携についての事例検討など盛りだくさん。1日の終わりにファシリテーターが受講生に質問し答えを引き出しながら総復習をする時間を取り、朝は受講生による前日のまとめをするなどTOTのプログラムで使った方法を取り入れていました。

トレーナーはそれぞれ自分の得意な分野を担当しているようで、警察や社会福祉局の職員など、実際にその業務に当たっている人たちはさすがに内容にも詳しく、自信を持って説明ができていたようです。時間的にも余裕がなく説明が長く続いた部分もありましたが、全体としては一方的な講義にならないように、受講生としっかり向き合い、意見を聴きながら、時には冗談も交えながらの双方向的な研修にするための工夫が見られました。事例検討では受講生から、国内で人身取引の疑われるようなケースがあってもなかなか事件化されていない現状についての発言や質問も出てきて、それぞれのケースの場合、支援者として何ができるのかが話し合われました。



二日目の最後にアクションプランについて説明をし、3日目の午後はグループに分かれてアクションプランの作成をしました。アクションプランは被害者の保護や自立支援に役立つ活動を考えてもら

い、採用したプランについてはプロジェクトで実施を支援していくことになっています。

マンダレーはこの時期も非常に暑さは厳しく、エアコンの効きが悪い教室はまるでサウナ状態でしたが、

各グループは座り込んで熱心に話し合いを続け、ティーブレイクの案内をしてもしばらくは誰も動かないで議論をしている状態が続きました。最後に10グループからそれぞれのプランを発表してもらいました。ターゲットエリアはマンダレー地域5か所、ネーपीドー1か所、シャン州4か所となっています。内容は日頃の活動の延長線上にある研修や予防活動に関するものが多かったのですが、その中でもどうやったら効果が出るかを考え、いろんな工夫がされているのがよくわかりました。



閉会式では受講生一人ひとりに修了書を授与し、集合写真を撮って解散。 熱い（暑い！）3日間の研修が終了しました。

6月24日からはヤンゴンでのマルチプレイヤー コース研修が始まります。今回の結果を参考に、アクションプランの作成についてはもう少し違う方法を試してみることも考えています。今回のマンダレー研修にはヤンゴン研修に参加予定のマンダレー在住メンバーも数人オブザーバー参加していて、マンダレーで学んだことをヤンゴン研修で活かしてくれるのではないかと期待しています。

過去のニュースレターは下記サイトよりご覧頂けます。
<http://www.jica.go.jp/project/myanmar/004/index.html>



本通信は、プロジェクトの進捗状況および周辺情報をお知らせするために専門家の見聞をお送りしています。JICA およびプロジェクトのカウンターパートの見解ではありません。禁転載